

プレスリリース

平成28年4月27日  
公益社団法人国土緑化推進機構

## 第26回「みどりの文化賞」受賞者の決定について

公益社団法人国土緑化推進機構は、第26回「みどりの文化賞」受賞者を下記のとおり決定いたしました。

「みどりの文化賞」の表彰は、来る5月14日（土）、イイノホールで開催する第26回森と花の祭典「みどりの感謝祭」の式典において行います。

「みどりの文化賞」受賞者には、

- ア みどりの感謝祭名誉総裁眞子内親王殿下の表彰状
- イ 公益社団法人国土緑化推進機構会長の賞牌・副賞が授与されます。

受賞者

しーだぶりゅー にこる

**C.W. ニコル 氏**

受賞者

いわてけん くずまきまち

**岩手県 葛巻町**

問合わせ先： 公益社団法人国土緑化推進機構  
担当： 岩 佐 電話3262-8451

## 第26回 みどりの文化賞



「森の再生」と「心の再生」  
—豊かな森が持つ可能性を信じて—

受賞者

C.W. ニコル 氏 (75歳)

1. C.W. ニコル氏は昭和37年に初来日した。日本の美しい自然に魅せられ、それ以降世界中で自然保護の仕事をしながらも度々日本を訪れるようになった。しかし、高度成長と共に自然が失われて行くのを憂いたニコル氏は、美しかった本来の日本の森を取り戻したいと強く思うようになり、昭和55年に長野県黒姫山麓に居を定めた。そんな中、故郷のウェールズで、石炭の採掘とその後の廃坑のために荒れ果てていた森が、緑を回復しようとする人たちの運動によって、みごとに蘇ったことを知る。そして、日本で里山を蘇らせることを決意する。
2. 黒姫で執筆活動をしながら、昭和61年より森の再生活動を実践するため、荒れ果てた里山を購入し、その里山を「アフアの森」と名付け、手入れを開始した。そして、平成14年、その活動をより公益的なものとして全国展開するために、「一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団」を設立し、理事長となる。現在では多くの生物が生息する森に回復し、そのうち絶滅危惧種が56種類確認されるまでになった。
3. さらに、森が人間の心体へ与える良い効果を提唱し、児童虐待などで心に傷を負った子供や身体に障害を持つ子供を森に招く活動を開始。また、東日本大震災では被災した小学校を自然と共生することを学ぶ「森の学校」とする事業に貢献。「アフアの森」は生物学のフィールドワークとエコツーリズムを学ぶ学生のための訓練場にもなっている。その他でも執筆活動、全国各地での講演等を通じて、森の大切さ等の普及啓発を精力的に展開していることは、極めて高く評価される。

(経歴)

昭和15年7月17日 イギリス、ウェールズ生まれ

昭和 36 年 セントポール教育大学中退  
昭和 37 年 カナダ水産調査局北極生物研究所海洋哺乳類調査技官  
昭和 37 年 空手修行のため初来日  
昭和 42 年 エチオピア帝国政府野生動物保護省狩区主任管理官  
昭和 47 年 カナダ水産調査局淡水研究所主任技官  
昭和 53 年 カナダ政府の官職を辞任し再来日  
昭和 55 年 長野県黒姫山の麓に居所を定める  
昭和 61 年 黒姫山の荒れた里山を購入し「アフアンの森」と名付け、里山再生運動を展開  
平成 07 年 日本への帰化を果たし、日本国籍を取得  
平成 14 年 「一般財団法人 C. W. ニコル・アフアンの森財団」を設立し、理事長となる。  
平成 17 年 京都大学フィールド科学教育センター社会連携教授

### (受賞歴等)

平成 12 年 第 45 回アジア太平洋映画祭アニメーション部門グランプリ  
平成 14 年 児童福祉文化財の推薦をうける 『裸のダルシン』  
平成 17 年 名誉大英勳章  
平成 24 年 ソーラーアワード（再生可能エネルギーの促進に寄与）  
平成 27 年 第 2 回信州おもてなし大賞（長野県の観光促進に寄与）

### (主な委員等)

(財)屋久島環境文化財団特別顧問（平成 5 年～）  
内閣官房「21 世紀地球環境懇談会」委員（平成 6 年）  
東京都エコツーリズム・サポート会議委員（平成 15 年～）  
環境省エコツーリズム推進会議委員（平成 15 年～）  
長野県森林大使（平成 23 年～）  
林野庁・木材利用ポイント大使（平成 26 年）  
エチオピア・シミエン山岳国立公園（世界自然遺産）親善大使（平成 26 年）

### (主な著書)

- ・冒険家の森～サバイバル技術教書～（クロスロード 1982）
- ・野生との対話 海の幸・山の幸と共に（講談社現代新書 1985）
- ・C. W. ニコルの自然記 森と山からのメッセージ（実日新書 1986）
- ・C. W. ニコルの森の時間（読売新聞社 1994）
- ・勇魚（文芸春秋社 1987）
- ・森へ行こうよ！（地球絵本）（小学館 2004）
- ・裸のダルシン（小学館 2002）
- ・ことばと自然 子どもの未来を拓く（アートディズ 2006）（鈴木孝夫共著）
- ・マザーツリー 母なる樹の物語（静山社 2007）等、著書多数

# 第26回 みどりの文化賞

◎テーマ

地域資源とその機能を  
最大限に活用した地方創生

◎受賞者

岩手県 葛巻町

1. 葛巻町のキャッチフレーズは、「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」。町内に散在する牧場・農場を活用したグリーンツーリズム、山ぶどうを原料にした「くずまきワイン」の生産、風力及び太陽光発電などの新エネルギー発電を推進している。160%以上の電力自給率を達成した新エネルギー関連施設は年50万人以上の視察者がある。
2. 特に、町の面積の86%を占める森林を生かした木質ペレットの生産、木質モデル施設へのペレットボイラー導入、木質バイオマスのガス化発電実証プラントの建設等による木材資源のエネルギー利用、さらに樹皮を町の主力産業の一つである酪農において敷料利用するなど、地域資源を有効利用する実践的方法の開拓と自然循環型社会の構築に取り組んでいる。また、長年、林産副産物を原料とした食品の製品化にも力を入れており、特に、地域に自生していた山ぶどうを原料としたワインは、様々な賞を受賞し高い評価を得ている。このように、葛巻町では森林に賦存する資源を様々な手法で有効活用するとともに、山林が持つ価値を高める努力が続けられている。
3. 日本は人口減少の時代を迎え、葛巻町にもその大きな波が押し寄せている。地方経済の活性化と人口減少問題を克服するために、産業振興対策や定住対策のほか、葛巻高校山村留学制度の創設や新葛巻型酪農構想の推進など、葛巻だからこそできる、葛巻にしかできない「地方創生」に果敢に挑戦し、葛巻町に住む誰もが「夢」と「誇り」を持ちながら、安心して住み続けることができる「全国の山村のモデルとなるまちづくり」を目指す葛巻町のその実践は、極めて高く評価される。



子どもたちと植林活動



町産材の住宅への積極的利用



木質バイオ（ストックヤード）

#### （設立経過）

- 明治 22 年 4 月 1 日 町村制が施行され、北九戸郡葛巻村が成立
- 昭和 15 年 12 月 25 日 葛巻村が町制施行し、九戸郡葛巻町となる
- 昭和 23 年 7 月 1 日 岩手郡葛巻町となる
- 昭和 30 年 7 月 15 日 旧・葛巻町、江刈村、田部村が合併し新たな葛巻町となる
- 昭和 53 年 12 月 15 日 町章を制定する

#### （受賞歴）

- 平成 18 年度 「バイオマス利活用優良表彰」で最高位の農林水産大臣賞
- 平成 23 年 「防災功労者内閣総理大臣表彰」（台風第 15 号における消防団の災害出勤）  
（葛巻町消防団）
- 平成 27 年 「過疎地域自立活性化優良事例表彰」で最高位の総務大臣賞

## みどりの文化賞について

### 1 趣旨

緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に資する観点から、平成2年、国土緑化推進機構は「みどりの文化賞」を創設し、緑や森に関して顕著な功績のあった者（個人または団体）を対象として顕彰している。

### 2 選考方法

広く学識経験者等から候補者の推薦を受け、それに基づいて有識者で構成する「みどりの文化賞選考委員会」において受賞者を決定する。

### 3 表彰

「みどりの月間」中に開催される「みどりの感謝祭」の式典において表彰し、みどりの文化賞受賞者には、

- ① みどりの感謝祭名誉総裁（眞子内親王殿下）の表彰状
  - ② 国土緑化推進機構会長の賞牌・副賞
- を授与する。

### みどりの文化賞選考委員（五十音順）

青山佳世	フリーアナウンサー
倉本聰	自然・文化創造会議議長、作家
佐々木恵彦	日本学士院会員、(公財)国際緑化推進センター理事長
澁澤寿一	特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク理事長
田部井淳子	登山家
滑志田隆	ジャーナリスト（元毎日新聞編集委員）
古川清	元東宮大夫
宮林茂幸	東京農業大学地域環境科学部 教授

(敬称略)

## 「みどりの文化賞」のこれまでの受賞者

- 第1回 戦後の森林造成と国土緑化  
(受賞者) 徳川宗敬 氏 (故人)
- 第2回 木の文化の継承、発展に貢献した者  
(受賞者) 西岡 常一 氏
- 第3回 森林と水との関わりを社会にひろめる  
(受賞者) 財団法人 水利科学研究所
- 第4回 森林と水の守り手, 山村を支える (個人)  
(受賞者) 黒澤 丈夫 氏 (群馬県上野村村長)
- 第5回 森林と水の守り手, 山村を支える (団体)  
(受賞者) 宮崎県諸塚村
- 第6回 ボランティア活動による森林づくり  
(受賞者) 草刈り十字軍
- 第7回 持続的森林経営をめざす森林づくり  
(受賞者) 高橋 延清 氏
- 第8回 大都会のなかでの自然豊かな森林づくり  
(受賞者) 明治神宮の森
- 第9回 海を蘇らせた森林づくり  
(受賞者) えりも岬の緑を守る会
- 第10回 「森林文化」の新たな展開  
(受賞者) 筒井 迪夫 氏
- 第11回 民間公益団体による緑化活動支援  
(受賞者) ゴルファーの緑化促進協力会 (GGG)
- 第12回 上下流の協力による森林づくり  
(受賞者) (財) 矢作川水源基金
- 第13回 国際緑化活動の推進  
(受賞者) 神足 勝浩 氏
- 第14回 地方自治による山村活性化への取り組み  
(受賞者) 松形 祐堯 氏
- 第15回 国民参加の森林づくり運動の推進  
(受賞者) 高木 文雄 氏
- 第16回 民間団体等による「国民参加の森林づくり」運動支援  
(受賞者) 株式会社 ローソン (ローソン緑の募金)
- 第17回 森林を活かし、木の文化の伝承に貢献した者  
(受賞者) 小原 二郎 氏
- 第18回 森林文化を未来に引き継ぐ森林管理  
(受賞者) 神宮司庁営林部 (伊勢神宮宮域林)
- 第19回 民間団体による国際緑化活動の推進  
(受賞者) (財) オイスカ
- 第20回 森林と人との豊かな関わりを目指して  
(受賞者) 北村 昌美 氏
- 第21回 伝統の技が生み出す木の文化  
(受賞者) 田中 文男 氏

- 第22回 「水と緑と土」は、豊かな自然の原点  
(受賞者) 富山 和子 氏  
さくらは日本のシンボル～大震災からの復興の励みに～  
(受賞者) 佐野 藤右衛門 氏
- 第23回 日本の山から明るく豊かな展望の到来を願って  
(受賞者) 島崎 洋路 氏
- 第24回 「森林の力を地域の力に」の実現を目指して  
(受賞者) 中越 武義 氏
- 第25回 「森は海の恋人」運動の実践を通じ豊かな日本の未来を目指して  
(受賞者) 畠山 重篤 氏